

校長室から
(R元年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 15

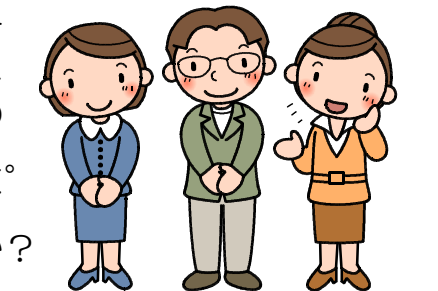
令和元年6月14日(金)発行

土曜参観、ありがとうございました

8日(土)は、せっかくのお休みのところ、子ども達の授業の様子を参観していただき、本当にありがとうございました。どの学年も、参観者の方が廊下にまであふれ、ご迷惑をおかけしました。

どの子ども少し緊張していたようですが、とても頑張っていたように思います。いかがでしたか？学級の中の一人として頑張っている子ども達。

一人ひとりのがんばりをいっぱい誉めてあげてください。



教えて、ほめて、叱るバランス

6/10(月)は土曜参観の代休でしたが、「時の記念日」でした。日本初の時計(水時計)が鐘を打った日が6/10であることに由来するそうです。その「時」から連想されることは、教育哲学者の森信三先生の「令を正す、場を浄める、時を守ることが人間の生活の基本・原点となる」という教えです。この内容は、小・中学生の時期、そして将来の大人になっても生活の原点として指針となる大事な言葉だと思います。この「当たり前」ともいうべき三つをしっかりと身につけることは人間として大切なことです。これを子どもたちがいつでもできるようになるには、学校だけで言うても身につけません。家庭でも、そして地域でも同じことを言うていくことが大事です。子どもたちの周りには大人が、声を発して正しいことを教えていくことが、大事になってくるのでしょう。

「挨拶を家族で交わす。使ったものは元の場所に戻す。規則正しい生活をする。」この三つは生活の基本中の基本ですが、家庭で子どもに身につけさせることは並大抵のことではありません。そのことだけに終始していると、言っている親の方がまいってしまいます。達成するには、短期間の目標や約束を子どもと一緒に決めたり、できたときにはカレンダーにシールを貼るなど、少しの工夫が必要だと思います。できたことを褒めることが次への頑張りにつながり

ます。子育ては押しやり引いたりの繰り返しなのでしょう。

明治時代のある学校で保護者に向けて次のような教えを発していました。

かはゆくば 五つ教えて 三つほめ 二つ叱りて良き人にせよ

という教えです。(明治6年開校「大輪学校」(現：埼玉県久喜市)の明治35年「大輪学校児童教育要項」より)

子どもを伸ばすには、教えることと、褒めること、そして叱ることのバランスが大事なのだという教えです。このことは現代にもしっかりと通じる教えです。子どものしつけは親としても頭を悩ますところですが、子どものよりよい成長のためにこの教えを胸に子育てを楽しんでください。

「こしょく」を考える

6月は食育月間です。「食育」を指導するにあたり、家庭での大きな問題として「こしょく」があげられます。いろんな「こしょく」があります。

「孤食」：家族と一緒に暮らしているのに、一人で食事をする。食事はコミュニケーションの観点からも重要ですが、一人なので「つまらない」「寂しい」という気持ちになり、疲れやすくなったり、イライラすることが多い。

「個食」：一緒に食事をしているが、各々違う食べ物を食べていること。食べているものが違うので、感想を言い合ったり、作った人の苦勞を気遣ったりする心が育ちににくい。

「子食」：子どもだけで食事をする。偏食になりやすい。親子の絆を深めににくい。

「粉食」：パンや麺類など、小麦粉から作られたものばかり食べる。柔らかい食べ物が多いため、噛まずに飲み込む癖がついたり、食べ過ぎたりすることもある。

「小食」：ダイエットのために：必要以上に食事量を制限すること。体が丈夫になりにくく、無気力になる傾向がある。

「濃食」：濃い味付けの物ばかり食べる。素材が持つ味や香りを感じることができないため、味覚が育ちににくくなる可能性もある。

「固食」：同じ物ばかり食べる。栄養バランスが偏るのはもちろん、わがままで自己中心的な性格になる傾向があるとされている。

毎日三食を家族と一緒に食べることは難しいかもしれませんが、お子さんが一人きりで食事をしない状況を、少しでも多く作ってほしいです。家族団らんが、何より美味しいスパイスになりますから。